

平成29年2月28日

基町の明日を考える会

広島市中区基町地区社会福祉協議会 会長 徳弘 親利 様

広島市中区基町連合自治会 会長 瀬戸口 寿一 様

広島県知事 湯崎 英彦

(地域政策局都市圏魅力づくり推進課)

広島市長 松井 一實

(市民局文化スポーツ部スポーツ振興課)

広島商工会議所会頭 深山 英樹

(産業・地域振興部地域振興チーム)

「広島市中央公園へのサッカースタジアム建設候補地撤回
申し入れ書及び質問書」に対する回答について

平成29年1月24日に開催された「基町の明日を考える会」で受領した「広島市中央公園へのサッカースタジアム建設候補地撤回申し入れ書及び質問書」の項目のうち、現時点で回答が可能なものについて、別添のとおり回答いたします。

回答内容	頁
1 サッカースタジアムの必要性	1
2 中央公園広場が建設候補地に追加された経緯	2
3 居住環境等への影響と対応策について	5
4 中央公園広場について	6
5 基町地区のまちづくりについて	7

申し入れ書及び質問書に対する回答

1 サッカースタジアムの必要性

地元のプロスポーツチームであるカープやサンフレッチェ広島の活躍は、多くの県民・市民に誇りと喜び、夢と感動を届けるとともに、広島市の目指す「全ての人々が様々なスポーツに関わり、市民の笑顔であふれる『スポーツ王国広島』」の実現に大きく寄与し、さらに、まちの活力創出につながるものです。

カープについては、新しい活躍の基盤として新球場を建設したことが毎年の入場者数の増加につながっており、平成28年に25年ぶりのリーグ優勝を果たしたことで、広島のみならず大いに盛り上がりました。さらに、新球場の完成は、広島陸の玄関であるJR広島駅周辺の再開発を加速させ、スポーツ施設がまちづくりを先導した事例として高い評価を受けています。

サンフレッチェ広島についても、ここ5年で3回の優勝を果たし、多くの県民・市民の憧れの存在として、これからの広島スポーツ界を牽引するリーダーとしての役割が期待されており、その活躍に大きな注目が集まっています。

広島の新たなシンボルとしてのサッカースタジアムは、広域的な集客効果を高めるなど、広島市ひいては広島県全体の活性化につながるものであり、さらに、サッカーを通じた地域交流や国際交流も期待できることから、サッカースタジアムの整備は、広島県及び広島市のまちづくりの方向性にも合致するものです。

こうしたことから、現在、広島県、広島市、広島商工会議所が一体となって、サッカースタジアムの整備に向けて検討を進めています。

2 中央公園広場が建設候補地に追加された経緯

サッカースタジアムについては、サンフレッチェ広島がリーグ優勝を果たしたことなどから、市民等の間にサッカー専用スタジアムが欲しいという機運が高まり、スタジアム建設の早期実現のために約37万件の署名が集まりました。

もともと、サンフレッチェ広島の関係者からの強い要望があった中での署名であったことから、平成25年6月に、サンフレッチェ広島、広島県サッカー協会及び学識経験者などからなるサッカースタジアム検討協議会（以下「検討協議会」という。）を設置し、どこにどういったスタジアムを造るか、ということをしっかり議論することになりました。

検討協議会では、最初に、広島市内の9つの大規模用地等が候補地に挙がっていましたが、メリット、デメリットを検討する中で、中央公園広場、旧市民球場跡地、広島みなと公園、広島西飛行場跡地、広島広域公園の5つに絞り込まれました。

さらなる検討の結果、広島西飛行場跡地については、軌道系を持たないことなど、交通アクセスに課題があること、また、サンフレッチェ広島が本拠地として使用しているエディオンスタジアムがある広島広域公園については、今後、Jリーグの試合を継続的に開催するためには屋根掛けなどが必要となり、改修費が新設と同額程度になることや、アクセスに課題があることから、それぞれ候補地から外れました。

こうして、中央公園広場、旧市民球場跡地、広島みなと公園の3つの候補地に絞り込まれましたが、3つの候補地それぞれに課題がある中で、サンフレッチェ広島を含めたサッカー関係者が、アクセスが良いという理由で旧市民球場跡地を強く推し、経済界や学識経験者が、敷地が広く複合開発ができるという理由で広島みなと公園を強く推しました。

このため、候補地を一つに絞り込むことはできず、旧市民球場跡地と広島みなと公園の2つを候補地とする提言が取りまとめられ、行政、経済界及び広島県サッカー協会に候補地の絞り込みが委ねられました。その際、広島県サッカー協会から、協会はスタジアム建設を要望している当事者であるため、候補地が決まるまでは検討メンバーから外れ、絞り込み作業は、広島県、広島市、広島商工会議所の3者で行われた旨の申し入れがありました。

その後、平成27年7月、広島県知事、広島市長、広島商工会議所会頭の3者は、広島みなと公園が、宇品地区を中心とした物流拠点に対する交通対策などの課題があるものの、ホテル等の併設による複合開発、スタンド下の有効活用やまちづくりの観点から優位であると判断し、2つの候補地に関する調査などを行っていました。

そうした中、広島みなと公園については、宇品地区を中心とした物流拠点に対する交通対策などの課題が指摘されていたことに加え、平成28年3月に、サンフレッチェ広島から、路面電車と路線バスによるアクセスでは時間を要することや、広島みなと公園に建設してもクラブ経営が赤字になることを理由として、使用する考えはなく、旧市民球場跡地に自ら建設したいという独自案が公表されました。

しかしながら、旧市民球場跡地については、敷地が狭く、観客の溜まり空間が確保できないことや、平成28年5月のオバマ大統領の歴史的な訪問により、未来志向で平和を発信していくにふさわしい場所として一層その重要度が増したと考えられることから、平和記念資料館から原爆死没者慰霊碑及び原爆ドームを見通す景観を重視しながら、次世代に引き継ぐべき地へと再生していく必要があること、そして、高さ制限を遵守し、景観を守るためには建設費が割高になることなどから、スタジアムを建設する上で大きな課題があります。

このような状況の中、スタジアムの主な利用者となるサンフレッチェ広島の方考え方をよく確認するために、事務的な調整を経て、広島県知事、広島市長、広島商工会議所会頭の3者とサンフレッチェ広島会長との4者で意見交換を行うことになりました。

平成28年8月10日に1回目の、同9月14日に2回目の意見交換を行ったところ、検討協議会で絞り込まれた2つの候補地では4者が納得する結論を出すことが難しい中、その他の候補地について、検討協議会の検討過程を踏まえて、改めて再検討することとなりました。

その結果、検討協議会で最終段階まで候補地となっていた中央公園広場について、旧市民球場跡地と同等のアクセスを有し、敷地面積にも余裕があることから、高い評価を受けていたものの、検討協議会の意見集約の際に、旧市民球場跡地と広島みなと公園が強く推されたことから候補地から外れてしまったこと、さらに、サンフレッチェ広島の求める「中心部」の範囲内にあると言えることから、現在の2つの候補地を残しつつ、その他の候補地として追加することとし、広島県、広島市、広島商工会議所及びサンフレッチェ広島の4者が協力して検討することとなったものです。

3 居住環境等への影響と対応策について

仮に中央公園広場にサッカースタジアムを整備することとなった場合に想定される騒音や渋滞など、基町地区住民の居住環境や小学校等への影響については、専門家による調査が必要であり、影響度やそれに対する具体的な対応案については、今後、旧市民球場跡地や広島みなと公園と同様に、スタジアムの配置計画案を作成し、専門的な調査を実施した上で回答いたします。

4 中央公園広場について

中央公園については、平成25年3月に策定した「旧市民球場跡地の活用方策」において、それが持つ様々な特性を生かしつつ、3つの空間特性（にぎわいの空間、くつろぎの空間、文化を醸し出す空間）を備えたものとする事としてしています。

そして、中央公園の一部である中央公園広場については、芝生広場ゾーン及びスポーツゾーンとするイメージに沿って、活用方策を策定することとされています。

また、現在、広島県と広島市が連携して策定を進めている「ひろしま都心活性化プラン」においても、この場所は、歴史・文化・スポーツ交流ゾーンの一部として位置付けられています。

こうした中で、中央公園広場は、景観に優れ、大人から子どもまで幅広く活用できる市民全体の憩いの場であるとともに、地震、津波及び大規模な火災の際の指定緊急避難場所としての機能を有するなど、市民生活においても、大変重要な役割を果たしている場所であると認識しています。

このため、こうした機能は、仮に中央公園広場にサッカースタジアムを整備することとなった場合においても維持したいと考えており、具体的な対応案については、今後、旧市民球場跡地や広島みなと公園と同様に、スタジアムの配置計画案等を作成した上で回答いたします。

なお、仮に中央公園広場にサッカースタジアムを整備することとなった場合には、スタンド下の空間などを活用し、公共施設等を整備することも検討したいと考えており、どのような機能を持たせるかについては、今後、地域の方々の御意見も伺いながら検討したいと考えています。

5 基町地区のまちづくりについて

基町地区においては、少子高齢化による地域コミュニティの活力の低下や、空き店舗の増加に伴う商店街の衰退など、多くの問題が顕在化しており、地域と行政が協働して活性化に取り組むことが必要となっています。こうした中、地区の中心となる基町住宅については、今後とも、建替えや補修等を適切に行いながら、市営住宅としてしっかり維持していくよう考えています。

また、地区の諸課題に対応するよう、平成25年7月に基町住宅地区活性化計画を策定したところであり、今後、次のような事業を進めていくこととしています。

(1) 若年世帯等の入居促進

平成29年2月現在、目的外使用によって、若年世帯3世帯、学生4人が入居しており、今後、50戸程度まで入居を増やしていく計画としています。これら若年世帯や学生を中心として、他の入居者と一緒になってコミュニティ活動を活性化させていきたいと考えています。

(2) 福祉・介護の拠点づくり

高齢化率や一人暮らし高齢者の割合が高い基町地区において、高齢者が安心して生き生き暮らせるまちづくりを進めるため、現在、広島市の関係課が連携を図り、空き店舗へのデイサービスセンターの設置等に向けて取り組んでおり、引き続き、住民の方々の御意見を伺いながら、早期の事業者募集が行えるようにしていきたいと考えています。

(3) 基町小学校の教育活動の一層の充実

基町小学校においては、これまでも、日本語学習教室や外国からの訪問者との交流活動を実施する国際理解学習など、多文化共生教

育の拠点としての取組を進めてきましたが、基町地区を魅力ある住宅地とし、若年世帯等を呼び込めるようにするためには、基町小学校の教育力をさらに引き上げる取組が必要です。

このため、「個に応じた指導研究校」に指定し、3・4年生の国語と算数を中心にした少人数指導や日本語指導を充実させ、基礎的学力の向上を図っていくとともに、「幼・保・小の連携の拠点」として、隣接する幼稚園・保育園との連携、交流を進め、小学校教育への滑らかな接続を図るための取組も進めていきたいと考えています。さらに、多文化共生教育の拠点として、英語力の向上も図ります。

(4) にぎわい再生に向けた基町プロジェクト

現在、広島市立大学と中区役所が連携し、若者を中心とする創造的な文化芸術活動や地域交流を通じて、地区の魅力づくりや活性化促進の取組を行っています。今後、活動の幅をより広げていくため、新たに開設した2つの拠点の活用を図りながら、取組のさらなる充実を図ります。

基町地区のまちづくりについては、基町住宅地区活性化計画に基づいて、その他の取組についても進めていきたいと考えており、住民の方々から御要望や御意見をいただきながら、安心・安全に暮らすことができ、活力とにぎわいのあるまちとなるよう取り組んでいきます。